



ヤマトタケル 篇

白鳥となったヤマトタケル

ヤマトタケル。『古事記』では倭建命、『日本書紀』では日本武尊と記されています。ヤマトタケルは、第15代天皇・景行天皇の皇子で、天皇の命令で各地の有力者の討伐を行いました。東国での戦いの帰途、ヤマトタケルは伊吹山の神を倒そうとしますが、これが原因で病気となり、彼は能褒野ほの（現在の三重県亀山市）で亡くなってしまいます。ヤマトタケルは能褒野に葬られますが、彼は白鳥となって大和を目指して飛び、その後、河内へと至りました。白鳥の飛行ルートは、能褒野↓大和琴弾原ことひきのぼ（御所市）↓河内古市（羽曳野市）とされており、現在、この3箇所にはヤマトタケルの陵墓が造られています。

室生三本松には、ヤマトタケルを祭神としている白鳥神社があります。ここには能褒野で亡くなったヤマトタケルが白鳥となって飛来してきたという伝承があります。また、大和琴弾原の伝承も宇陀にもあり、ヤマトタケルを祀る祠を起源とするのが白鳥居神社しろとりい（大宇陀山口）といわれています。

白鳥となったヤマトタケルが伊勢から大和、河内へと飛んで行った途上に宇陀があることから、ここにもヤマトタケルの白鳥伝説が生まれたのでしょうか。

